

耐切創手袋



「安全第一」

「自分の身は自分で守るう…安全職場」

切創事故を防ぐためには、現場の中でケガや事故の原因を特定し、作業環境や工具、機械の取扱いに十分注意しましょう。

手袋の目的は、作業中に作業者の手や手首上部までを災害から守る目的で使用されています。そのためには作業内容にあった手袋が要求されます。当社では、耐切創繊維の手袋を着用することで、切創事故防止対策をしています。

当社では、カッター使用してのボード切断作業が主になります。定規やカッターの正しい使い方に耐切創手袋を着用して作業を進めています。

# 耐切創手袋の使い方



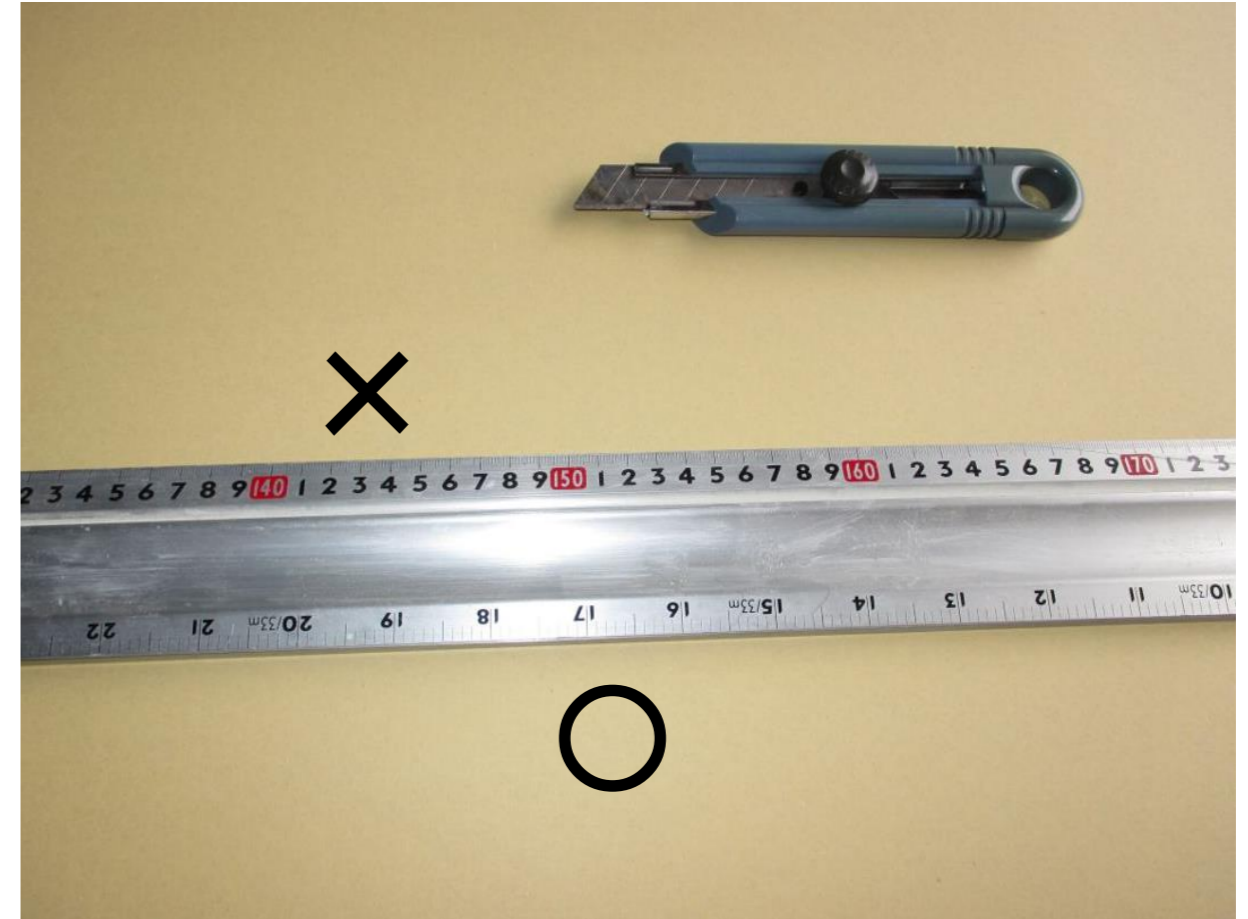
切創手袋は、図1から図2のように、**定規を押さえる手**に手袋を装着すること。

装着していても、カッターの刃の角度によっては手袋が切れることもある。力を入れすぎても、定規から外れることもあるので気をつけること。





ボードを切るときに、定規を押さえて、押さえた手より、**前からカッター**使用しないこと。カッターが定規より外れて、手の負傷につながる。



定規を使用するときは、**上記の○の厚みのある面**を使用すること。  
×の面は、薄くなってる。